

協働啓発資料

「協働のまちづくり事例集」

～まちづくりのヒント！～



平成 25 年 4 月
磐田市 市民活動推進課

協働のまちづくりに向けて

磐田市のまちづくりは、行政だけでなく、NPOやボランティア団体、自治会といった地域団体、関係機関や事業者など、公共サービスの様々な担い手によって支えられています。



地域の公共サービスの多様な担い手が、共通の目的を達成するため、それぞれの持ち味を活かしながら対等な立場で協力（＝協働）することで、私たちのまちにきめ細かいサービスが広がり、より暮らしやすいまちづくりが進みます。

特に、市民と行政との協働は、委託、補助、共催、協力、後援などの形態によって実施されており、この事例集は、磐田市で今までに行われた協働の取組みの中からいくつかの事例を紹介し、理解を深めていただくために作成しました。同じ目的に向かって協働するプロセスがどのように行われ、どんな課題や成果があったのかを紹介しています。

現在、磐田市では、多様な形態による協働事業が着実に増えてきていますが、これらの事業の質を高め、市民の視点や発想、手法などが協働事業に活かされるための意識変革が課題となっています。ひとくちに「協働」といっても、実際に進めていく中では、協働に対するお互いの認識がずれていたり、ルールやコミュニケーション不足から行き違いが生じたり、そもそも何のために協働したのか目的と効果が不明確だったり、様々な課題があり、試行錯誤を続けているというのが現状です。

ぜひ市民の皆さんにも、本事例集をご一読いただき、市民と行政の協働のあり方や課題などについて、ご意見やご提案をいただけると幸いです。

平成 25 年 4 月 1 日

磐田市市民部 市民活動推進課

目次

協働のまちづくりに向けて

1 協働とは	3
2 協働の形態	3
3 協働事例の紹介	4
●保健、医療又は福祉の増進を図る活動（活動分野）	
暮らしの足を考える研修会 N豊岡	4
「脳いきいき講座」なぜなる・どうする・認知症	6
●社会教育の推進を図る活動	
多様な団体の連携協力による農業体験	8
青少年育成事業 キラリ☆サマーキャンプ	10
いわたゆきまつり	12
●まちづくりの推進を図る活動	
外国籍の中学生への学習支援	14
しあわせの波紋	16
開蕙楼跡地の公園整備	18
動物を愛護する写真展	20
まち美化パートナー（道路河川）	22
●観光の振興を図る活動	
エリアR150ツーリズム	24
●農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動	
トレッキングコース作り	26
●学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動	
総合型地域スポーツクラブによる芝生化	28
長野公民館グラウンドの芝生化	30
廃棄芝を活用したまちづくり	32
●社会教育の推進を図る活動	
ジュピロ磐田東北3町村招待事業	34
●環境の保全を図る活動	
古紙の拠点回収事業	36
●地域安全活動	
安心安全のまち「タイヤセーフティーセミナー」	38
●子どもの健全育成を図る活動	
子どもが作る弁当出前教室	40
磐田の安心安全子育てサポート事業	42
●職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	
夏休み！わくわくお仕事体験	44

1 協働とは

「協働」とは、市民、NPO法人をはじめとした市民活動団体、事業者など、多様な主体がお互いの立場を尊重した対等の関係で、共通の目的を達成するために協力して活動することです。

協働は、行政からNPO法人や事業者等に、単に業務を委託するといったようなことではなく、双方の主体性、専門性を生かしながら協働することにより、双方にメリットが発揮される（Win Winの関係）とともに、単独で実施するよりも効果が上がる（ $1+1 \geq 2$ ）と考えられます。

2 協働の形態

プロセス	協働の形態	説明
企画立案 P L A N	情報交換 意見交換	相互に持っている情報を継続的に提供・共有する形態で、特定の人に偏らず、多様な情報や意見を収集できます。
	事業の 企画立案	行政が政策立案や事業企画を行うに当たって、NPO等からの提言や意見などを取り入れる形態で、新たな社会的課題に対するNPO等の先駆的な取り組みのノウハウや専門的な知識などを生かせ、地域や生活の現場からの問題提起や提案・意見が受けられます。
実施 D O	委 託	行政の責任において実施するべき事業を、NPO法人等に委託して実施する協働形態で、NPOの専門性などを生かし、効果の高い事業が実施できます。
	補 助	NPO等が主体的に取り組む公共的な事業に、行政が資金などを提供し援助する形態で、NPO等の先駆性や柔軟性、専門性などを生かし、行政が公平・平等の点から対応が困難な市民ニーズに対応できます。
	共 催	NPO等と行政が共同で一つの事業を主催する協働形態で、NPO等の専門性やネットワークを生かすとともに、市民の視点から事業を企画・実施することができます。また、行政が共同の主催者であることにより、NPO等の信頼性が高まります。
	協 力	共催以外の形態で、NPO等と行政が協力して、それぞれの特性を活かす役割分担により、一定期間、継続的に事業を実施する形態で、身近な社会的課題を解決することにより、市民の意識や関心が高まるとともに、双方の得意分野を生かすことができるなど、相乗効果が期待できます。
	後 援	行政が、NPO等の事業に対して信用保証を行う協働形態で、NPO等の信用を高め、社会での認知度が増すことにつながります。

暮らしの足を考える研修会IN豊岡

共催

事業期間

平成 23年 12月 ~ 24年 3月

実施地域

市全域



第5回「私たちはこう考えました！」研修報告、発表、講師による講評

きっかけ

高齢化社会が進行する中、高齢者が地域で自立した生活を送れるよう、身近な日常交通手段に関する問題について、地域の方々と共に考える機会を設けることとした。

目的と内容

高齢者を地域で見守り、支え合う体制の構築、特に高齢者の移動手段の確保について、意識の共有化を図り、問題を解決していくための方策を、地域、NPO、行政が協働して検討していくことを目的とする。

第1回は現行制度の学習、第2回は近隣市町の取り組みを視察、第3回は大学教授による講演会、第4回は地域別グループワーク、第5回は活動報告を実施した。

活動分野

保健、医療又は福祉の増進を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

NPO法人磐田まち
づくりネットワーク

事業企画、担当各部署との打ち合わせ、視察先調整、関係機関への事業説明、全5回研修会の開催、連絡調整、報告集作成、広報活動等

【行政(担当課)】

高齢者福祉課

事業企画調整、庁内関係各課との連絡調整、関係機関との調整、研修会協働開催、広報活動等

【協力団体等】

磐田市社会福祉協議会・豊岡地区社会福祉協議会・磐田市民福祉移動サービスネットワーク・岩田暮らしの足を考える会・豊岡地域包括支援センター等

活動成果と今後の予定

事業計画は、NPO法人・社会福祉協議会・行政関連各課が話し合い、調整を図りながら作成した。

NPO法人の持つノウハウを生かし、地域に対しては課題の認識及び整理ができた。また、関係各課、機関においては相互に課題共有できたことが最大の成果である。研修の構成として、連続性（情報の共有化→課題抽出→課題の共有→課題解決の方策を探る）を持たせることで、磐田市における当テーマでのモデル的研修のスタイルが確立できた。

今後も地域の方と共に引き続き本問題について考えていきたいと思う。

活動を振り返って

NPO法人
磐田まちづくり
ネットワーク

事業計画の段階から顔の見える関係が構築されてきていたこともあり、誰もがそれぞれの職務の中で意見交換し、調整、開催に至ったことが最大の成果である。

高齢者福祉課

高齢者を地域で見守り支え合う体制の構築を図ることを目的に活動を実施した。事業計画の段階から関係者が打合せを綿密に行った結果、共通意識を持って事業実施ができたため、参加者にとって有意義な研修を実施することができた。成果には満足している。

みんなで脳活しましょう！

協働の形態

「脳いきいき講座」なぜなる・どうする・認知症

共催

事業期間 平成 21年 7月 ～ 継続中

実施地域 市全域



認知症のメカニズム&最先端情報に関する講義

きっかけ

認知症による介護負担が年々増加傾向にある中、認知症になってからの介護よりも、認知症にならないための予防が大切であると考えた。

目的と内容

認知症にならない、させない生活習慣を身につけることを目的として、日本認知症学会理事長・日本認知症ケア学会評議員を講師に招いて講座を開催した。

認知症のメカニズムや予防の考え方、生活習慣の秘訣に関する講義に加え、自己の現状を知るためのセルフチェックを併せて実施し、いつまでも「いきいきと元気に過ごすこと」の大切さを伝えた。

活動分野

保健、医療又は福祉の増進を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

ライフサポートセンター
西部・中東遠 講座の企画、開催

【行政(担当課)】

高齢者福祉課

地区社会福祉協議会・関係団体との連絡調整、開催場所の提供、広報紙への案内掲載、周知、講座の補助

【協力団体等】

地区社会福祉協議会
NPO法人 いきいき・いわた

活動成果と今後の予定

国の推計によると、認知症患者は2015年には345万人、高齢者の10人に1人になるといわれており、認知症による介護負担が増加傾向にある中で、認知症に対する理解、予防のための生活習慣について広く市民に周知することができた。

地域での認知症予防の理解が重要であると考え、今後は地区社会福祉協議会と連携し、身近な地域で開催し、より多くの方に受講してもらえようとした。

活動を振り返って

ライフサポート
センター西部・中東遠

初開講から4年が経ち、市役所や地区社会福祉協議会等の協力をいただき、地域ぐるみの活動に発展した。
この講座と健康への関心の高まりを強く感じている。

高齢者福祉課

毎回、参加者が多数であり、認知症予防への関心の高さを改めて感じた。
行政のみでなく、あらゆる方向から情報発信していく重要性を感じた。

黒米づくりによる農業の体験学習！

協働の形態

多様な団体の連携協力による農業体験

共催

事業期間

平成 22年 5月 ~ 24年 11月

実施地域

豊田地区



稲刈り講座での全体集合写真（平成23年）

きっかけ

生涯学習推進協議会委員からの要望等から企画された講座である。
講座企画規模の拡大に併せ、公民館で活動している団体や庁内関係課等との連携を図り、事業展開した。

目的と内容

農業の体験学習を通して、子ども達に「食」と「農」の大切さを伝え、地域農業への理解と促進、食への感謝の気持ちを育むことを目的として、講座を実施した。
平成22年度は4回、平成23年度は7回、平成24年度は4回と観察会3回を実施した。

活動分野

社会教育の推進を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

ふれあい田んぼ
倶楽部応援団

各団体の得意分野を生かして、各講座ごとに役割を分担し参加型の活動とした。

【行政(担当課)】

市民活動推進課・公民館

主たる事業企画、運営プランを提示、公民館とも相談しながら具体化していった。各団体との事前打合せを行い、講座運営をした。

【協力団体等】

古代米生産者・JA豊田支部青年部・いちはつの会・ニッセ倶楽部・裏千家渡辺社中・磐田西高校茶華道部・公民館活動サークル・地元自治会関係者・ヤマハ発動機労働組合・ヤマハ発動機ジュビロ・ShaAarp・源氏とひまわりの里づくりの会

活動成果と今後の予定

受講者のアンケート結果において、満足度は毎年90%を超え、子ども達に有意義な体験を提供することができた。また、講座を通して、関係する個人や団体との良好な関係を構築することができ、生涯学習のネットワーク化を図ることができた。講座は今年度をもって終了するが、講座継続を希望する受講者・関係者は大変多い。

活動を振り返って

ふれあい田んぼ
倶楽部応援団

毎年毎回、精力的な活動をしていただき、講座運営を支えてくれた。併せて、ボランティア自身がやりがいや充実感を持ってもらえたことがよかった。

市民活動推進課

子ども達に思い出に残る体験をしてもらうことができ、田んぼに関わる多くの方々の支援協力により講座運営ができた。この人的資源は大きな財産である。

キラリ☆サマーキャンプ

補助

事業期間

平成 23年 4月 ~ 25年 3月

実施地域

市全域



キラリ☆サマーキャンプ2012 エコキャップアート

きっかけ

青年会議所と教育委員会等との実行委員会が開催してきたが、平成23年度から青年会議所の主催事業となった。しかし、市として、野外活動を通じて得られる体験は、青少年の健全育成に大きな効果をもたらすことが期待でき、また、青年会議所としても行政や教育の視点からの支援が円滑な運営に必要であるということになり、協働事業として実施することになった。

目的と内容

自ら感じ、自ら動く機会を与え、子どもたちに「OMOIYARI」と「感謝の心」を育むことを目的とし、市内の小学校6年生を対象としたキャンプを磐田市竜洋海洋公園で実施をしている。平成24年度は、東日本大震災の被災地の福島県いわき市の小学生を招いて、カレー作りや海岸ごみ拾い、エコキャップアートなどを行った。

青年会議所と教育委員会等との実行委員会による開催を含め、平成24年度で7回目となる。

活動分野

社会教育の推進を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

磐田青年会議所

キャンプの企画、運営

【行政(担当課)】

市民活動推進課

学校との連絡調整、企画運営助言、金銭的補助

【協力団体等】

磐田商工会議所・豊田ライオンズクラブ・NPO法人磐田まちづくりネットワーク・NPO法人磐田市体育協会・ボーイスカウト磐田地区

活動成果と今後の予定

保育園児とのふれあい、被災地の児童との交流をはじめとして、毎年、青年会議所の目的に合った活動を行い、最終日には、子ども達の充実感あふれる笑顔があふれている。

また、継続して開催していく中で、キャンプを経験した高校生がボランティアとして再び参加している。今後、さらに、キャンプ経験者が、高校生や大学生となり、学生ボランティアとして参加するという循環が増えてくることが考えられ、青少年のリーダー育成という点からも効果が期待できる。

今後も青年会議所の主催事業として、継続して実施していく予定である。

活動を振り返って

磐田青年会議所

子ども達の実態に合った活動プログラムの検討や荒天時の対応、地震・津波に備えた緊急避難の方法など、市と話し合いながら企画できたことは、安全で円滑な運営に役立った。

市民活動推進課

毎年、多くの参加者を集めているのは、青年会議所のメンバーの若さと技能を生かしたアイデアあふれる運営によるものである。市内小学生のために貴重な実体験の場を毎年、作ってくれることは、たいへんありがたい。

いわたゆきまつり

協力

事業期間 平成 18年 1月 ～ 継続中

実施地域 今之浦地区



雪山ひろば

きっかけ

磐田市では雪があまり降らないため、子供達が雪で遊ぶ機会が少ない。そこで、子供達を雪で遊ばせたいという思いから始まった。当初は、磐田市青年団が開催していたが、今では「若者いわたネットワーク」が引き継ぎ、実行委員会を組織して実施している。

目的と内容

多くの市民が楽しみ、参加することのできる交流イベントを開催するなかで、健全な青少年の育成と明るいまちづくりを推進するため、100トンの雪による雪山や雪遊び広場を設置したり「白雪姫と雪の王子さまコンテスト」等のイベントを行い、毎年多くの来場者がある。

活動分野

社会教育の推進を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

いわたゆきまつり実行委員会
(主管：WIN)

ゆきまつりの企画・開催、関係団体との連絡調整、ボランティアのコーディネート

【行政(担当課)】

市民活動推進課

事務局のサポート、広報等周知協力
金銭的支援(補助金)

【協力団体等】

トラック協会中遠支部青年部会
その他協賛企業

活動成果と今後の予定

平成23年度は約6,000人の来場者があった。
実行委員の人数も年々少しずつ増えてきており、準備段階から活気ある活動であったと思う。また、来場してくれた子ども達が、普段あまり縁のない雪で楽しく遊んでいる姿を見ることができ、よかったと思う。
今後は、実行委員として参加してくれる若者がさらに増えるよう呼びかけ、みんなが参加できる交流イベントとして、また、子ども達の喜び姿や笑顔を一人でも多く引き出せるよう、毎年継続していきたい。

活動を振り返って

いわたゆきまつり
実行委員会
(主管：WIN)

残暑の中の企画、多くの新メンバーの参加、会議、準備、そして当日。子供たちの笑顔を想像しながら活動し、メンバー同士の交流も深めることができた。磐田や磐田のイベントへの愛着が、多世代にも広がっていくことを願っている。

市民活動推進課

実行委員はボランティアで個人参加している若者の集まりであり、学校や仕事の合間を縫って運営しているため、母体(拠点)となる事務局の存在が不透明となる。市が事務局のバックアップをすることにより、事務局の存在機能(所在地、連絡先、提出先等)を確立させることができ、実行委員の企画運営のサポートができたと思う。

地域の大学との連携！

協働の形態

外国籍の中学生への学習支援

協力

事業期間

平成 23年 4月 ~ 24年 3月

実施地域

南御厨地区



学習支援の様子

きっかけ

外国籍の中学生の高校進学率が低迷していることを知り、中学・高校の教師経験を持つ多文化交流センターのスタッフとボランティアが高校進学に向けた中学生への学習支援をスタートさせた。多文化共生社会推進協議会でも中学生への学習支援については、課題となっており、協議会の会長を務める静岡文化芸術大学の池上教授から地域貢献活動として、大学生による多文化交流センターへの学習支援の申し出があり、行政、大学及び地域が協力して中学生への学習支援を行っている。

目的と内容

日本では、高校へ進学しないと就職するのが困難な状況である。そのため、外国籍の中学生への学習支援や大学生から受験勉強のアドバイスなど、高校進学に向けたサポートを行うことを目的とする。

多文化交流センターのスタッフとボランティア、静岡文化芸術大学が連携し、水曜日と金曜日の週2回、高校進学に向けた中学生への学習支援を実施している。

活動分野

まちづくりの推進を図る活動

実施団体と役割

【協力団体等】

静岡文化芸術大学
ボランティア
多文化交流センター

高校進学に向けた学習支援
受験勉強の方法や受験のアドバイス
学習相談

【行政(担当課)】

市民活動推進課

中学生への学習支援の啓発
静岡文化芸術大学との調整
多文化交流センターとの調整

活動成果と今後の予定

高校受験に備え、勉強する習慣が身に付いてきた。また、大学生が支援してくれたことでマンツーマンの学習が可能となり、支援する体制が整備された。

学習を通してスタッフとの信頼関係が深まり、学習以外に行った中学生応援パーティーには、家族や地域の人、高校へ進学した先輩も参加し、これから受験する中学生にエールを送ることができた。

静岡文化芸術大学の学生は、親睦を図るため、夏休みや冬休みに中学生を大学に招き、ゲームやお菓子作りなどを一緒に楽しんだ。

今後も行政、大学及び地域の三者が協働し、外国籍の中学生への学習支援に取り組んでいきたいと思う。

活動を振り返って

ボランティア

外国籍の中学生への学習支援を行うことで、多文化交流センター、地域、静岡文化芸術大学の学生と関わりを持つことができ、とても良かったと思う。特に大学生は、英語が得意なためボランティアの不得意な科目をカバーしてもらい、相互に補い合うという協働の効果がありとても助かった。

静岡文化芸術大学

人に勉強など何かを教えることが好きだったことや教師になりたいということもあり、外国籍の中学生への学習支援に参加した。実際に教え言葉が壁になっていることは全く感じなかった。支援している中学生に静岡文化芸術大学でのクリスマス会などへも参加してもらい、勉強以外で親睦を深めることができた。

中学・高校教師の経験を持つセンタースタッフとボランティアの人々と協働して中学生の学習支援をすることにより人に教えるという点でいろいろ学ぶことができた。

市民活動推進課

行政、大学、地域の三者が協力したことで、お互い苦手とする分野を補うことができた。中学生には大学生が目標にもなり、学習する意欲にもつながった。

～1人の100歩ではなく100人の1歩で行動連鎖～

協働の形態

しあわせの波紋

委託

事業期間

平成 22年 7月 ～ 23年 3月

実施地域

市全域



NPO、市民活動ボランティア団体の活動紹介

きっかけ

平成21年度 協働のまちづくり提案事業において実施団体であるNPO法人マリ
ンプロジェクト、しあわせクラブ、東海福祉専門学校の有志が出会い、「ちーむあ
い」が結成された。その中で、磐田市に住む私たちが自分の持つ役割や「幸せに暮
らす」ことを考え、住み良い地域づくりのために貢献したいという考えが芽生え
た。

目的と内容

私たち一人ひとりが今できることを考え、地域で互いに関わりを持って幸せに過
ごせるまちづくりの気持ちを多くの磐田市民と共有することを目的とした。
市内5カ所で「わたしにできること」をテーマとした映画「107+1～天国はつく
るもの～パート2」を上映し、NPO・市民活動団体の活動紹介を行った。「ちーむあ
い」と行政が、何度も話し合いアイデアを出し合って活動の方針を決めていった。

活動分野

まちづくりの推進を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

ちーむあい

映画上映、ワークショップのコーディネート、イベントの企画・実施

【行政(担当課)】

自治振興課

映画上映、ワークショップとイベントの実施、広報

【協力団体等】

若者いわたネットワーク・はまぼう・NPO法人サンサン磐田・NPO法人ふくでハッピーハンズ・NPO法人磐田まちづくりネットワーク・磐田市社会福祉協議会・いっぴく処・結・みんなでうさぎ山を楽しむ会等

活動成果と今後の予定

事業終了後に実施したアンケートには「一歩動くことが大切だ」というようなコメントが多かった。そのため、目的である「私達が今できることを考え、地域でお互いに支え合い幸せに暮らすまちづくり」を考えるきっかけを、様々な年齢層の方や家族での参加者など多くの人へ与えたと思う。また、いろいろなボランティア、NPO団体とコラボレーションができた。

今後は、さまざまな市のイベント等に協力的な関係で関わっていきたい。

活動を振り返って

ちーむあい

「協働」で行ったことにより、行政への理解や、目的達成を通し協調性は高まったと感じる。また、参加された方や関わった方の多くの笑顔や肯定的言葉から一人ひとりの意識が少なからず変わったのではないかと考える。

自治振興課

推進する「協働：わたしにできること」と同じ、ミッションを持った今回の「ちーむあい」の活動を通して、事業に携わった人に感動と「わたしにできること」への気づきを与えられ、その成果は大きいと感じている。

歴史ある庭園を後世へ！

協働の形態

開庭楼跡地の公園整備

協力

事業期間

平成 21年 4月 ~ 継続中

実施地域

中泉地区



整備された公園の様子

きっかけ

所有者がやむを得ず手放さざるを得なくなった開庭楼跡地の歴史的価値を今後の世代に伝えていくと共に、地域のコミュニティの場としても整備、保存をしてもらいたいとの申し出が地元よりあり、磐田市で土地を購入し公園として整備を行っている。

目的と内容

開庭楼跡地は、中世から近世にかけて当地の地頭・代官などを歴代にわたって勤めた秋鹿家の庭園であった場所であり、明治初年には浜松県下の中泉公園として一般に公開されていた歴史的な意義をもつものである。そのため、これを有効に活用し、地域住民の憩いの場となるよう整備を進めている。

活動分野

まちづくりの推進を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

田町自治会(有志)

柵の整備、竹の伐採、草刈等

【行政(担当課)】

都市計画課

杭の支給、草刈後の片付け等

【協力団体等】

—

活動成果と今後の予定

地元有志と磐田市の協働により、池周辺の転落防止柵や法面設置、樹木の剪定、草刈り等をお互いの得意とする役割を担いながら整備を続けている。
今後、地元住民と話し合いながら住民の憩いの場として既存の池、塀などの景観素材等を残し、歴史的資源を生かした公園となるよう整備を続けていきたい。

活動を振り返って

田町自治会(有志)

来訪者から歴史的価値のある土地の整備に対するねぎらいの言葉をいただき、活動の励みになる。

都市計画課

地元との協働でまだまだ整備中であるが磐田市としても歴史的資源を活かした市民の憩いの場となるよう整備を進めたい。

鑑札、注射済み票、名札、マイクロチップ等で救える命があります！

協働の形態

動物を愛護する写真展

協力

事業期間

平成 24年 9月 ~ 24年 9月

実施地域

豊田東地区



動物愛護の心を高める写真展＝ららぽーと磐田

きっかけ

団体が協働のまちづくり提案事業へ応募したことをきっかけに、写真展開催について環境課との交流が始まった。そして、団体の動物愛護に対する思いと市役所の動物行政の施策とマッチングし、写真展の開催となった。

目的と内容

ペットを飼っている人が、ペットの命に終生にわたる愛情と責任を持ってもらうことを目的とした。動物を愛護する精神を高めるため、帰る家を失った動物たちの現状を知らせる写真展を9月にららぽーと磐田で開催した。

活動分野

まちづくりの推進を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

いわた動物愛護協議会

写真展の準備・開催、来場者への説明

【行政(担当課)】

環境課

展示場所の借用、会場設営、写真展の開催

【協力団体等】

—

活動成果と今後の予定

行政と協働したことで入場者が多い場所で写真展を開催でき、動物愛護の啓発が効果的にできた。写真を見てもらい一人でも多くの方が、ペットの所有者明示に取り組むことを願っている。

ペットの命に責任を持つということに、飼い主が高い誇りと喜びを感じてもらうような活動内容を今後も考えていきたい。

活動を振り返って

いわた動物愛護協議会

環境課と協働したことで、市の施設であるららぽーとの磐田市情報館で開催でき、予想以上の多くの来場者を迎え大変良かった。協働により環境課の職員と交流し、私達の考えを理解していただけたため活動の励みとなった。

環境課

多くの方の協力もあり、動物愛護団体と協働した初めての写真展に、多くの来場者を迎えることができた。

みんなの気持ちで町をキレイに！

協働の形態

まち美化パートナー（道路河川）

協力

事業期間

平成 21年 4月 ～ 継続中

実施地域

市全域



大池クリーン作戦での刈り取った草の回収

きっかけ

市でも道路清掃や補修などの維持管理に努めているが、ゴミの投げ捨て等が後を絶たない。そこで、市の道路などの公共スペースを子どもに見立て、希望する自治会や事業所に親代わり、つまり里親となってもらい、一定区間の清掃や補修活動をするアダプト制度をスタートさせた。

目的と内容

自らが暮らす地域は、自らが守り育てることを目的に、自治会や企業等が場所を決め、道路・排水路の清掃美化や草刈、道路の陥没等の簡易補修をボランティアで行う。市はごみ・草・汚泥の回収やごみ袋の支給や参加者の保険加入等による支援を行う。

活動分野

まちづくりの推進を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

自治会・事業所等118団体

道路・排水路の清掃、道路の陥没等の簡易的な補修、ガードレールの塗装

【行政(担当課)】

道路河川課

道具貸出し、物資支給、ごみ・草・汚泥回収、活動の調整、広報活動、保険加入、協議会事務局運営、車両・オペレーター・交通整理者の派遣、交通規制

【協力団体等】

—

活動成果と今後の予定

自治会、企業等から1年間で合計約70回、2,700人の参加があった。さらに、中高生やPTAが参加するなどいろいろな団体へ広がりを見せている。登録団体の連絡協議会もあり、各団体が参加し大池クリーン作戦を実施した。20団体、約200人が道路河川課と一緒に大池周辺の草刈・回収を行った。今後も参加団体を募集していく。

活動を振り返って

参加団体
磐田化学工業
株式会社

祝日以外の毎週月曜日に祝川の土手、川の中のゴミ拾いを実施した。地域事業所5社でまち美化ウォークを実施し、他社とのコミュニケーションが図れた。鮫島海岸、大池クリーン作戦にも参加し他団体との協働を体験する事もできた。今後も身の丈にあった活動を継続していく。

道路河川課

関係団体との連絡調整は時間が掛かる面もあるが、参加者が『市をきれいにしたい』という志を同じくして集まり、道路や排水路が見違えるようにきれいになるとやりがいを感じる。

地域の魅力再発見！

協働の形態

エリアR150ツアーリズム

委託

事業期間

平成 23年 4月 ～ 24年 3月

実施地域

福田地区他



シラスの水揚げ見学



地産地消バイキング



コーデュロイの剪毛体験



風力発電見学（風車内部）

きっかけ

磐田市農林水産課が「食の拠点づくり」整備計画を進める中で、飲食業を営む醍醐荘と福田漁港周辺の活性化について話し合い、国道150号の周辺にある魅力的な産業のPRにより、にぎわいを創出することとなった。

目的と内容

市民に国道150号沿いの魅力ある産業を知ってもらうため、見学と体験、地産地消をテーマとしたバスツアーを企画した。

シラスが水揚げされてから釜揚げになるまでの工程の見学や、別珍・コーデュロイの歴史学習と剪毛&機織体験、風力発電施設の見学、オール磐田産の地産地消バイキングなどを行った。

活動分野

観光の振興を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

醍醐荘

地元のネットワークを生かした見学先調整、募集チラシ作成、応募受付、当日添乗等

【行政(担当課)】

農林水産課

漁協などとの見学調整、募集チラシ配布(市内幼稚園、保育園、小学校)、ラジオ放送手配等

【協力団体等】

いくいくいわた・(株)エマ観光・(株)エコパワー・遠州漁業協同組合・カネチョウ水産・コーディネートハウス・杉浦養魚・てんか・(株)農建・見付どっさり市・竜洋環境創造(株)

活動成果と今後の予定

担当者同士の打合せを定期的に行い、訪問先やスケジュール、PR方法などを検討したことにより、相互の特性を生かしたツアーを開催することができた。

参加者アンケートの満足度が高く、「地域の産業に興味湧いた」「また実施してほしい」とのコメントに効果を感じた。

平成24年度は担当課で予算化し「いわた風土ツーリズム」として実施している。

活動を振り返って

醍醐荘

市民に地場産業を知ってもらうことは、地域への興味が増すとともに、産業の担い手のPRになったと思う。地域の発展につながり、市民と地域の絆も深まっていくように感じた。

農林水産課

3回のツーリズム開催により、参加者から非常に高い満足度を得ることができた。民間、行政それぞれの特性を集約した結果、有益性の高い事業を行うことができた。

森林の素晴らしさを体感しよう！！

協働の形態

トレッキングコース作り

共催

事業期間 平成 23年 4月 ～ 継続中

実施地域 豊岡東地区



ボランティアによるコース整備状況（階段作り）

きっかけ

市内には約2,600haの森林があるが、中には荒廃した森林も多い。市民が森林の重要性や自然の大切さを理解し、森林をもっと身近に感じてもらいたいという思いから、平成22年6月にプロジェクトチームを立ち上げた。

目的と内容

多くの方が森林の素晴らしさを身近に体感できるトレッキングコースを目指し、ボランティアが主になって整備作業を行った。また、地域活性化の一つとなるよう地域の関係団体、専門家にも協力してもらいワークショップを開催し整備を進めた。

活動分野

農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

磐田ハイキングクラブ

コース整備の指導、助言、作業等

【行政(担当課)】

農林水産課

関係団体やボランティアとの連絡調整、コース整備の作業

【協力団体等】

敷地外四ヶ字財産区（整備区域山林の管理者）・市民ボランティア

活動成果と今後の予定

多くのボランティアや関係団体等の協力のもと主な整備を4回行い、皆で知恵を出し汗をかいて非常に充実した良いコースを作ることができた。行政単独ではなく多くの方が参加したことにより、皆がこのコースと獅子ヶ鼻周辺の山に親しみを持っていただけた。今後も新たなコース整備を目指していきたい。

活動を振り返って

磐田ハイキングクラブ

ワークショップを重ね、情報交換をすることで素晴らしいコースを整備することができた。

農林水産課

ボランティアや関係団体との連絡調整など大変な面もあったが、皆が同じ目的を共有し、同じ目線で行動したことによりコース整備が進んだ。

安全に楽しく運動を！

総合型地域スポーツクラブによる芝生化

協働の形態

協力

事業期間

平成 19年 4月 ~ 24年 3月

実施地域

田原地区



スポーツクラブたはらの運営による田原地区運動会＝田原公民館

きっかけ

クラブの活動拠点である公民館グラウンドを芝生化することで、質の高いスポーツ教室等のサービスを提供したかった。また、総合型地域スポーツクラブの育成を支援するとともに、地域住民の活動場所を整備することでスポーツ振興を図りたかった。

目的と内容

地域住民が日常的に利用し、安全に楽しく運動や遊びを行うことができる環境づくりを目指して、総合型地域スポーツクラブである「NPO法人スポーツクラブたはら」と市が協働して、田原公民館グラウンドの芝生化を実施した。

活動分野

学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

NPO法人
スポーツクラブたはら

公民館グラウンドの芝生化作業と維持管理、地域住民への貸出し、芝生を活用したスポーツイベントや教室の実施等

【行政(担当課)】

スポーツ振興室

芝生化の指導や芝生の素となる「コア（廃棄芝）」の提供

【協力団体等】

—

活動成果と今後の予定

4年間かけ、田原公民館グラウンド（約3,000㎡）の芝生化を実施した。以前からさまざまな活動に取り組んでいたが、芝生化したことによりグラウンドゴルフが継続して行われるようになったり、地区運動会の種目が増えたりするなど、地域住民がより積極的にスポーツに親しみ、取り組むようになった。

今後も、芝生管理を続け、スポーツイベントなどで情報提供や用具の貸し出しなどを行い協力して活動していく。

活動を振り返って

NPO法人
スポーツクラブたはら

グラウンドを芝生化したことにより、利用者の活動の幅が広がった。今後も、地域住民へのスポーツ・健康づくりサービスを提供していきたい。

スポーツ振興室

総合型地域スポーツクラブとして、芝生化されたグラウンドを有効活用し、これからも地域行事の企画・運営を担いコミュニティの核として活動に取り組んでほしい。

芝生化の活用によるコミュニティづくり！

協働の形態

長野公民館グラウンドの芝生化

協力

事業期間 平成 23年 6月 ~ 継続中

実施地域 長野地区



芝生の整備と維持管理

きっかけ

毎年雑草が生い茂り、草刈作業をしなければならない状況でグラウンドとしての利用はできない場所であった。グラウンドとしての面積増加と景観の向上のため、グラウンドの一部（約800㎡）を芝生化することにした。

目的と内容

グラウンドを芝生化し、グラウンドゴルフや地域の運動会を実施する。また、地域コミュニティの中心としてさまざまな活動を行い、地域住民の親睦の輪を広げる。

芝生造成や維持管理については、隣接し芝生化されている長野小学校の機械等を使って道愛会会員や地域住民が協力して行っている。

活動分野

学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

長野道愛会

芝生の維持管理

【行政(担当課)】

スポーツ振興室
長野公民館

芝生化の整備における連絡調整と作業、指導維持管理体制づくりのための調整、芝生活用イベントの企画および運営

【協力団体等】

長野小学校・地域住民

活動成果と今後の予定

芝生化されたエリアは、グラウンドゴルフや地域の運動会が実施され、有効活用されている。また、幼稚園や周辺に住む子どもたちの遊び場、長野小学校の陸上課外活動などにも使用され、地域活用への広がりを見せている。

今後も、道愛会や地域住民が中心となり芝生の維持管理を行っていく。市としては、連絡調整を行いながら、維持管理体制づくりのための調整、活用イベントの企画及び運営を行う。

活動を振り返って

長野道愛会

長野公民館グラウンドを芝生化したことにより、地域行事やスポーツなど多くの場面で活用することができた。これからも、地域で協力して芝生の維持管理にあたっていく。

スポーツ振興室

障害者自立支援施設「あおばのさと」で生産した「コア再生苗」を一部利用し、地域の核となる施設を芝生化することにより、地域コミュニティの活性化や障害者施設の支援につなげることができた。

スポーツ資源を利用したまちづくり

協働の形態

廃棄芝を活用したまちづくり

協力

事業期間

平成21年度～平成23年度

実施地域

大藤地区



芝のほ場整備の様子

きっかけ

平成21年度に、磐田市が進めている芝生を活用したまちづくりの一環として、スポーツ振興室と障がい者自立支援施設「あおばのさと」、ジュピロ磐田が、ヤマハスタジアムの芝生の成長過程で発生する廃棄芝（間引いた芝）を再利用し、苗化する試験栽培を実施。

三者の中で、廃棄芝の再利用（苗化）を、障がい者支援に繋がりたいという思いが一致した。

目的と内容

廃棄芝の苗化を通じて、障がい者に雇用機会を提供するとともに、苗化した芝生を広く市内に販売・活用することで、芝生を活用したまちづくりの推進に寄与することを目的としている。

行政が小中学校の校庭芝生化事業で得たノウハウを生かし、「あおばのさと」との協働により芝苗の育成を実施。この事業に賛同したジュピロ磐田から提供された廃棄芝を施設利用者が芝苗として再生させる作業を担当。

育成した芝苗の販売を通じ、市内の芝生化を進めるとともに、販売収益は、施設の運営や芝苗の育成を担当した施設利用者の賃金に充当。

活動分野

学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動

実施団体と役割

【事業所】

障がい者自立支援施設
「あおばのさと」

芝のほ場管理、廃棄芝の苗化、苗の生産、販売

【事業所】

ジュビロ磐田

廃棄芝の提供

【行政(担当課)】

スポーツ振興室

総務省「緑の分権改革事業」を活用した芝のほ場整備、芝生栽培について技術的サポート、施設とジュビロの連絡調整

活動成果と今後の予定

障がいを持った人たちに芝苗の栽培を行ってもらうことで、障がい者支援（雇用機会の提供）に繋げることができた。また、栽培した芝苗を公民館や自治会、個人に販売することで、市内の芝生化を推進し、もって芝生を活用したまちづくりの実現に寄与することができた。（長野公民館のグラウンドや下万能自治会広場、個人宅の庭などの芝生化に活用）

この事業を通じて、「あおばのさと」は、障がい者支援に加え、芝生の販売収益を施設の運営に充てることができ、ジュビロ磐田は産業廃棄物として処理しなければならない廃棄芝の処分費用の削減ができた。

行政は、地域の芝生化の推進に加え、他市町からの視察受け入れにより、全国に芝生を活用したまちづくりのPRを行うことができた。（視察に来た福井県敦賀市が小中学校の校庭の芝生化を始め、「あおばのさと」で栽培した芝苗が使われている。

今後も三者の連携を強化し、障がい者支援や地域の芝生化を図り、芝生を活用したまちづくりを全国に発信していく。

活動を振り返って

障がい者自立支援施設
「あおばのさと」

ジュビロ磐田、スポーツ振興室と協力し事業を展開し、施設利用者の就労支援や運営サポートができた。

スポーツ振興室

「あおばのさと」の芝苗栽培に、小中学校グラウンド芝生化のノウハウを提供することで、障がい者支援、芝生を活用したまちづくり、芝生を活用したシティプロモーションにつなげることができた。

ジュビロ磐田東北3町村招待事業

協力

事業期間 平成 24年 8月 17~19日

実施地 御厨地区他



元ジュビロ、名波浩氏の講演会



ジュビロ磐田の選手との交流



地域サッカーチームとの練習試合



ジュビロ磐田のサッカー観戦

きっかけ

ジュビロ磐田が復興支援事業として東北3町村（大槌町、山田町、野田村）の小学生を磐田市に招待した。ジュビロ磐田の選手と交流したり、試合を見たりして被災児童に勇気や感動を与えるとともに、磐田市の良さを感じ、磐田市について知ってもらうために市としても参加することとした。

目的と内容

ジュビロ磐田の選手と交流したり試合を観戦したりすることを通して、被災した子ども達に勇気や感動を与え、これからの生きる活力としてもらう。
花鳥園やエコパスタジアムを見学したり、新造形創造館で万華鏡を作ったりした。ホテルで名波浩氏の講演を聞き、スタジアムでは、地域のサッカーチームと一緒に練習や試合をして親睦を深めた。ジュビロ磐田対セレッソ大阪の試合を観戦し、精一杯声援を送り、選手や観客と感動を共有することができた。

活動分野

社会教育の推進を図る活動

実施団体と役割

【事業所】

ジュビロ磐田

選手との交流、試合観戦準備、計画
講演会（元ジュビロ磐田：名波浩氏）準備

【行政(担当課)】

スポーツ振興室

ジュビロ磐田と3町村との連絡・調整
児童引率

【協力団体等】

ジュビロ磐田推進協議会

活動成果と今後の予定

子ども達は、バスと新幹線を乗り継ぎ、長い時間をかけて磐田市に来たにもかかわらず、一切疲れを見せず3日間を通して元気に楽しく過ごしていた。

芝生の上で大好きなサッカーを思い切りできたこと、目の前でジュビロの選手が全力でプレーする姿を見せてくれたことは、子ども達にたくさんの思い出と感動を与えてくれた。

今回は、ジュビロ磐田と協力してサッカーを通しての復興支援を実施したが、これからもいろいろな形で係わりを持ち支援し続けていきたい。

活動を振り返って

ジュビロ磐田

招待した子ども達が、笑顔でサッカーをしたり、試合を応援したりする姿を見ることができて良かった。選手達も、子ども達の姿に勇気をもらい、試合でも東北の子ども達のために精一杯プレーし勝利することができた。これからも、被災した子ども達への復興支援を続けていきたい。

スポーツ振興室

磐田市は、今までいろいろな形で復興支援に関わってきたが、今回はジュビロ磐田と協力し、スポーツを通して子ども達に元気や勇気、感動を与えることができた。子ども達の優しさや強さを感じ、スポーツの持つ力の強さや大切を改めて感じる事ができた。

古紙のリサイクルを推進する！

協働の形態

古紙の拠点回収事業

協力

事業期間 平成 22年 4月 ～ 継続中

実施地域 市全域



設置された古紙回収ボックス（iプラザ駐車場東側）

きっかけ

廃棄物の減量化と古紙の再生利用を推進するため古紙の拠点回収を充実させようとした際に、この管理・運営について福祉団体と古紙事業者に協力を求めた。

事業の内容

福祉団体と古紙事業者は、互いに協力する中で拠点回収により古紙を回収し再生施設に搬入する。また市は、公共施設などに拠点回収の場を提供し、これをPRする。なお、この管理・運営に係る費用は、古紙の売上金によりまかなうこととした。

活動分野

環境の保全を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

福祉団体

拠点回収施設における古紙受け入れ、回収施設周辺の環境美化

【事業所】

古紙事業者

コンテナなど回収設備の提供、再生工場への古紙搬入

【行政(担当課)】

ごみ対策課

拠点回収に必要な場所の提供、活動のPR

【協力団体等】

障害者団体

活動成果と今後の予定

平成23年度は、市内5カ所（iプラザ駐車場東側・福田図書館駐車場・竜洋支所駐車場・豊田支所東側の防災倉庫前・豊岡太陽の家前）で拠点回収を実施し、1年間で130トンを超える古紙を収集した。

今後は、現状の活動を継続する中で事業の拡大も視野に入れていきたい。

活動を振り返って

福祉団体

活動収入を受けながら市民生活に貢献する活動をすることができました。古紙回収にご協力いただいた方々には大変感謝をしている。

ごみ対策課

それぞれの団体が強みや特徴を生かす中で共通した目標に向かって活動することができた。

交通事故のない街づくり！

協働の形態

安心安全のまち「タイヤセーフティーセミナー」

委託

事業期間

平成 22年 7月 ~ 23年 3月

実施地域

市全域



タイヤ交換デモンストレーション

きっかけ

交通事故が依然としてなくなる状況が踏まえ、市民が悲惨な事故に遭わないため一人ひとりが、交通事故防止・交通安全に対する知識の取得、意識の向上が大変重要であると考えた。

目的と内容

市民が交通安全の重要性を認識することを目的に、専門家による「家族を守る安全運転」講座や各種デモンストレーションや体験コーナー、子供を対象とした交通安全教室を開催した。

活動分野

地域安全活動

実施団体と役割

【事業所】

(株)ブリヂストン磐田工場

セミナーの実施

【行政(担当課)】

防災交通課

会場準備、参加者の募集、関係者との連絡調整

【協力団体等】

磐田警察署

活動成果と今後の予定

交通安全をより広め浸透させていくために、普段なかなか知る機会のないこと、知っているようで知らなかったことをいかに多くの方に学んでいただくかということが重要と考える。その意味で今回の事業は、お母さんやお子さん、ご年配の方々に体験学習という形で交通安全を学んでいただき、多くの人の意識への浸透が図れたのではないかと考える。

活動を振り返って

(株)ブリヂストン磐田工場

従来は自社だけで行ってきた活動を市と協働という形で実施できたことにより、地元へ貢献・共生という企業の社会的責任をより効果的に果たす事ができたと考える。

防災交通課

自動車関連の企業との協働により専門家の知識やさまざまな体験コーナーなどの企画によって普段、行政だけで開催する交通安全教室とは違った啓発活動を行うことができた。

食を知り、食を作り、食を楽しむ！！

協働の形態

子どもが作る弁当出前教室

委託

事業期間

平成 23年 7月 ~ 25年 2月

実施地域

大藤地区



児童への家庭科授業での調理指導 二大藤小学校

きっかけ

子ども達へ食育を通し食べることの意味や正しい知識を教え、一人ひとりが自立して食生活を営める力を育てたかった。そして、子供達が元気に暮らせる力を養えるようにしたかった。

目的と内容

子ども達の心と体が健やかに育つため食への関心を深める食育を行うことを目的とした。大藤小学校の6年生を対象に、家庭科授業の中で自ら弁当を作る出前教室を開催した。出前教室は10回にわたり、地場野菜の紹介や買い物のポイントを教え、弁当作りの実習を行った。

活動分野

子どもの健全育成を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

いくいく・いわた

家庭科の授業の支援（調理実習、買い物のポイント、地場農産物の紹介、栄養の話など）、開催時のスタッフ派遣

【行政(担当課)】

農林水産課

実施校との連絡調整、地場農産物の現物・情報提供、広報PR

【協力団体等】

学校給食管理室・健康増進課（調理実習スタッフ派遣）・大藤小学校

活動成果と今後の予定

子ども達へ弁当作りを通して食が持つ大切さを伝え、自分の体は自分で守ることを考えるきっかけになった。また、家庭での弁当作りが家族と一緒に「食の持つ役割」を考える手助けとなった。24年度も農林水産課と団体と協働で事業を行い、食生活の大切さを伝える地域づくりを目指したい。

活動を振り返って

いくいく・いわた

行政と連携して事業を進め、実践活動を推進できた。また、会員が、行政と打合せを重ね情報交換を通し一つの輪になり、活動を楽しめた。

農林水産課

初めての活動だったが、実施者（団体、行政、学校）の持ち味を発揮でき、また、相互に思いが通じ、協働の楽しさを味わうことができた。

～いわたっ子のすこやかな成長をめざして～

協働の形態

磐田の安心安全子育てサポート事業

委託

事業期間

平成 23年 7月 ～ 24年 3月

実施地域

市全域



NPO法人子どもとメディア清川氏による「メディアづけで壊れる子どもたち」

きっかけ

子ども達の発達に関するさまざまな問題について、社会は家庭的な問題として扱い、子育ての責任を家庭にのみに向ける傾向にあり、子育てに悩む家庭、保護者が少なくない。

私たちは、「社会教育としてできることは何か」を探る中で、子どもとメディアの関係をテーマとして取り上げた。市内にこの問題に取り組む幼稚園・保育園があるが、小中学校を含め一般的に大変遅れているため、啓発の第一歩としたかった。

目的と内容

子どもを取り巻く現状と講演内容の共有化及び課題解決の方向性を見出すための子どもに係る関係機関、団体のネットワーク作りを目的とした。

子どもとメディアの関係をテーマとして、子育て環境を問い直す講演会「メディアづけで壊れる子どもたち」の開催や市内幼稚園・保育園の保護者へ子どもとメディアについてのアンケート調査を行った。その結果を各園・子育て支援センター・公民館等に配布し、それぞれの場で検証し、研修や事業計画に生かしてもらえよう働きかけた。

活動分野

子どもの健全育成を図る活動

実施団体と役割

【市民活動団体】

NPO法人磐田まちづくり
ネットワーク

講師との調整、広報活動、講演会開催、託児、
アンケート調査実施、アンケート調査報告配布

【行政(担当課)】

市民活動推進課

広報、会場準備、開催補助
*協力(教育委員会・こども課)

【協力団体等】

民生委員・児童委員・子どもの健康と環境を考
える会・託児ひよこ・子どもを守る会・幼稚
園・保育園・まちづくりサポーター等

活動成果と今後の予定

実際に幼稚園・保育園・子育て支援センター等に出向いて広報を行っ
たことにより、各園やセンターの状況を把握できたとともに、法人とし
ての信頼も得られた。これは、その後のアンケート調査への協力状況に
も如実に表れている。講演会へは学校教員、幼稚園・保育園関係者等、
幅広い参加者があり、関心の高さを感じた。特に乳幼児・小学生の親、
祖父母が参加したため、家庭教育へ一石を投じることができた。今回の
講演会、アンケート調査結果をそれぞれの場で生かしてくれることを
願っている。

今後は、定期的な働きかけの中で小学校へのアンケート調査(保護
者・児童向け)を考えている。さらに、中学校へのアンケート調査(生
徒向け)を考え、市全体としての課題解決の方策を生み出したい。

活動を振り返って

NPO法人
磐田まちづくり
ネットワーク

今回の意識啓発の事業は、すぐに成果が表れ
るものではない。長期的な展望の中で子どもを
取り巻く関係者のネットワーク作りを通し、関
心を持つ人達を増やし、市全体で青少年健全育
成の啓発活動として発展できればと願う。

市民活動推進課

講演会、アンケート調査をして課題解決の方
向性を見出すことができ、目的は達成されたと
考える。活動団体の専門性を生かした事業であ
り、今後も継続して協働で行政の目が行き届か
ない所まで活動してほしい。

夏休み!わくわくお仕事体験

協力

事業期間 平成 24年 8月

実施地域 豊田東地区



ららぽーと磐田でのお仕事体験終了後、磐田市情報館にて記念撮影

きっかけ

若者の就労意欲の低下が問題視されているなか、未来の職業人である子供たちに、市内企業を見学、体験させることにより職業観を養うこと、また、企業の技術者や職人の技に直接、接することで地域企業を知ってもらい、将来も磐田に住み就労したいという意識向上を図るために企画した。

目的と内容

市内の事業所を見学し仕事を体験することで、就業の意欲を向上させる。また、市内企業の技術や技に触れてもらい、ものづくりの魅力を伝えることで未来の職業人を育てることを目的としている。内容は、農商工をテーマとし、物流の仕組みや産業技術の見学、商業施設における職場体験を実施して、地元産業の魅力を知ってもらう機会とした。

活動分野

職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動

実施団体と役割

【事業所】

(株)遠州米穀・(株)大光製作所・ららぽーと磐田・パレマルシェ・谷島屋書店

職場体験の場の提供、指導等

【行政(担当課)】

産業政策室・商工観光課

企業との連絡調整、情報提供、広報PR

【協力団体等】

PA工業団地組合・磐田市情報館

活動成果と今後の予定

市内企業や店舗の協力のもと、夏季休暇中の市内小学校6年生を対象にお仕事体験を実施し、参加者からも好評を得ることができた。子ども達は、実際に仕事の現場や、職業を体験することにより、将来の仕事についてや普段何気なく利用しているお店の仕事について学ぶ良い機会となった。今後も、多くの子ども達に参加してもらい、地元の企業や技術に興味を持ってもらう機会としていきたい。

活動を振り返って

(株)大光製作所

レーザーがどのような製品に使われているかを学び、参加者の皆さんも実際にレーザーを体験できたいい機会であったと思う。

商工観光課

初の取り組みとして、市内企業の方々のご協力のもと、事業を実施することができた。市内小学校の多くの方に申込みいただき、市内企業の仕事に興味を持つきっかけになったのではないと思う。企業の方々と協力し、子どもたちに楽しく仕事について考える機会を提供できた。



©磐田市

ひっぺい